

巻 頭 言

東京女子医科大学 医学部 小児科学

オオサワ マ キ コ
大澤真木子

新千年紀を迎えた本年12月に本学は100周年を迎える。吉岡弥生学頭が女性の地位向上を一つの目標に本学を創立された。当時に比べれば、今の女性ははるかに恵まれた環境にあり、自己の能力を活かす意欲と情熱、根気強さを持ち、タイミングがよければ、様々な役割を与えられる可能性がある。不肖私が小児科学教室をお預かりするようになってから、この3月で6周年を迎えた。「病気に悩む子供達および家族に役立つ実践的医療とそれに役立つ研究、それらを行える医療人の教育」を教室の運営方針としてきた。優れた臨床研究を進め、まとめ上げることはなかなか困難であるが、常に鋭い共感性を持ち、詳細な臨床観察を行い、その問題解決の意欲をもつことが、医療および臨床的研究の出発点であると考えている。1例、1例の臨床的事実の積み重ねが非常に重要である。貴重な経験も論文になっていけば、その情報を共有し、他の医師がそれを参考に次の工夫をこらすことができる。しかしながら学会発表を論文にまとめ上げるには何十倍もの努力を要し、自らを反省するに、残念ながら論文にまとめられることなく埋もれてしまったものも非常に多い。少しでも論文の形にする機会を作ることを一つの目標に記念論文集作成を計画した。斎藤教授のリーダーシップのもと本記念号の企画は約1年前から開始された。実際には5周年記念が6周年記念となったが、論文をまとめる作業を通し、教室員の結び付きはより深くなったと思っている。

編集委員の先生方には、未熟な論文を査読して頂き、貴重なご指導をいただいたことを心から感謝致します。諸氏のご批判・ご指導をいただければ幸いです。